

2024年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
<p>○「かしこい子供」を重点に、学力向上を目指す。校内研究で取り組む算数科を中心に全ての学習の基礎となる問題解決能力を育成する。</p> <p>○子供の自主性・創造性・勤労意欲を重視する実践的・体験的な活動を通し、自ら学び自ら考える力を育成する。</p> <p>○近隣小中学校と協力し、小中9年間を見通した学力向上策に取り組み、小中一貫町田っ子カリキュラムに基づき、全教育活動において重点カリキュラムを計画的に実施し、小中学校間連携を推進する。</p>

授業改善の重点
<p>○本校の重点教育目標「かしこい子供」を目指し、校内研究で算数科に取り組み、問題解決学習についての授業研究を進める。事象を数理的に捉え、算数の問題を見出し、問題を自立的、協同的に解決できる力の育成を目指す。</p> <p>○朝のモジュール学習で漢字の反復練習を行うことで基礎的・基本的な学力を確実に習得させる。</p> <p>○学校図書館を計画的に利用し、図書時間の読書、読書週間における児童の読み聞かせやファミリー読書等の読書活動を通して、文章に慣れ親しませる。また各教科でも読み取る活動を通して語彙力を伸ばし基礎的・基本的な学力の向上を目指す。</p> <p>○クロムブック等のICT機器を各教科の調べ学習やまとめの学習に活用し、主体的に探究する意欲・態度を育てる。また、クロムブックや書画カメラと大型提示装置を組み合わせて課題を提示することで、意見の共有・比較検討する授業の活性化を行い、情報活用能力の育成を図る。</p>

各教科の指導の重点	国語科	音楽科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点
	<p>○漢字の読み・書きおよび語彙の習得など、自らすすんで辞書を活用していくことによって、言語に関する知識・理解の定着を図る。また、既習の漢字や言葉がつかえるように作文等で指導していく。</p> <p>○教科書の音読の宿題だけでなく、読書の宿題を出し、日常化につながるようにする。</p>	<p>○鑑賞したことが表現に結びつくような指導計画を立てる。どの児童も技能が習熟できるように、スモールステップを踏む授業を行う。</p>	<p>○人との関わりを重視し、地域の自然・文化・歴史的遺産を生かした学習を展開しながら、自分を取り巻く様々な人々との活動を通して、心の交流を深め、生きる力を育む。</p> <p>○町田市小中一貫教育カリキュラムに基づき、規範教育、キャリア教育、食育等の指導内容と関連させた横断的・総合的・体験的・探求的な活動を通して、自ら課題を見付け、自ら学び自ら考え、問題を解決する資質や能力を育成する。</p> <p>○地域連携担当教員やボランティアコーディネーターを中心に地域の人材を活用した体験的な学習を実施し、その学習を保護者に公開することで学校地域の連携を強化する。</p>	<p>○特別の教科道徳の時間を要として教科書を用いて、指導体制や指導法、資料選択・資料提示等の工夫を通して、生命尊重や人間尊重の精神を育成する。</p> <p>○毎時間の授業での児童の考えを記録することで、個々の成長を見取り評価に生かす。道徳教育推進教師が道徳授業の充実のための資料の扱い方、授業展開の工夫等を随時各学年に提供していく。</p>
	社会科	図工科	特別活動の指導の重点	外国語活動(3・4年)の指導の重点
	<p>○ICT機器を活用し、映像や資料を児童に見せることで理解を深められるようにする。</p> <p>○学区や町田市のことを、地域の方々に話をし、より理解を深めるとともに、地域に愛着をもてるようにする。</p>	<p>○既習の材料や用具を自分の想いに合わせて活用できるようにする。思いに合わせて、材料や用具の選択、判断ができない児童に個別に支援していく。</p>	<p>○学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事における活動の中で、児童の創意あふれる活動を計画的に設定することで、学校生活の充実を図り、協力してよりよい生活を築こうとする実践力を育て、豊かな人間関係を育む。</p> <p>○縦割り班を活用した活動を多く設定することにより助け合いや思いやりの心を育て、所属意識や集団としての向上心を高め、望ましい集団活動の展開と望ましい集団の育成を図る。</p> <p>○町田市小中一貫教育カリキュラムに基づき、学級活動において、規範教育、キャリア教育、食育の指導を通し、話し合い活動を充実させ、発表力や実践力の育成を図る。</p>	<p>○HRT(学級担任)が中心となった、ALTと連携した指導や、英語担当教員による研修等を通したHRT単独型指導の充実を図ることで、授業内容の質の向上を図り、児童に国際社会を積極的に生きていく力を育成していく。</p>
	算数科	家庭科		
	<p>○東京ペーシットリルを積極的かつ効果的に活用し、できる学力の向上を目指す。</p> <p>○ユニバーサルデザインの手法を活かし、自分の考えを深め、思考力、判断力、表現力を高めることができるようにする。</p> <p>○ICT機器を使い、児童の考えを共有、比較し、思考力・表現力・判断力を高める。また、図形など苦手な児童がイメージできるようにすることで理解につなげられるようにする。</p> <p>○日常的に、今年度の校内研究の視点を意識して学習指導に努める。</p>	<p>○めあてを明確にし、見通しをもたせることによって、主体的に活動できるようにする。</p> <p>○スモールステップ型にしたり、学習形態を工夫したりして必要な力を身に付けさせるようにする。</p>		
	理科	体育科		
	<p>○ワークシートやノート指導の際、学習の流れを明確にし、児童が見通しをもち、主体的に取り組むことができるようにする。</p> <p>○映像や資料を大型テレビに映すことで、実際に行った実験と関連させ、理解を深められるようにする。</p>	<p>○学習の見通しをもたせること、毎時間のねらいをもたせ十分な運動時間と課題解決の時間を与えること、しっかり振り返り、価値付けることで、高まりを実感させ、一人一人の児童が次時の運動への意欲を高められるようにする。</p> <p>○ICT機器の視覚的に動きを把握できる利点を生かして、児童の体育への興味関心を高めることができるようにする。自身や友達の動きを確認したり、比較したりし、思考力・判断力を高めることができるようにする。</p>		
生活科	外国語科(5・6年生)			
<p>○地域の方々を招いたり、体験学習を行ったり等、地域のよさを活かした学習を多く取り入れる。</p> <p>○オリンピック、パラリンピックを招く等、2020レガシーを意識した指導を行う。</p>	<p>○HRT(学級担任)が中心となった、ALTと連携した指導や、英語担当教員による研修等を通したHRT単独型指導の充実を図ることで、授業内容の質の向上を図り、児童に国際社会を積極的に生きていく力を育成していく。</p>			

ICT機器の活用	価値ある対話の共有	見通しをもたせる導入
<p>クロムブック等のICT機器を各教科の調べ学習やまとめの学習に活用し、主体的に探究する意欲・態度を育てる。また、クロムブックや書画カメラと大型提示装置を組み合わせて課題を提示することで、意見の共有・比較検討する授業の活性化を行い、情報活用能力の育成を図る。</p>	<p>本校の重点教育目標「かしこい子供」を目指し、校内研究で算数科に取り組み、問題を自立的、協同的に解決できる力の育成を目指す授業研究を進める。主体的・対話的な授業構築を通して、全ての基礎となる問題解決能力の育成を目指す。</p>	<p>児童に何を学ぶか、どのように学ぶのか、見通しをもたせる。単元のゴールを明確にする。</p>